

技能人材*にフォーカスした「就労者に対する日本語教師初任研修」

AOTS 研修プログラム科目一覧

※以下の情報は一部変更の可能性もございます。

日程・時間	科目名	講師/所属等	研修目的・内容
8/31(土) am9:00- pm11:35	オリエンテーション	AOTS 教師研修事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション(日程、研修科目、受講方法、提出物、修了要件等) ・研修受講前における就労者に対する日本語教師に求められる資質・能力についての自己評価を行う。
	就労者に対する日本語教育概論	杉山 充 AOTS 日本語教育センター センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者の多様性とその日本語教育の特徴・重点課題を理解する。 ・AOTS の研修を例に各自の日本語教育に携わる立場や役割をイメージする。
	外国人の受け入れ政策と日本語教師	神吉 宇一 武蔵野大学 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人材受入れに関する法律や政策、背景となる日本の社会状況に目を向ける。 ・就労者に対する日本語教育を行う日本語教師・日本語教育関係者としての役割を多角的かつ具体的に考える。
9/7(土) am9:00- pm11:35	職種・職位によって求められる日本語教育 -制度における日本語能力要件-	杉山 充 AOTS 日本語教育センター センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・技能実習生や特定技能外国人材が日本で働きキャリアを形成する際に制度上求められる日本語能力要件や企業側が講じる日本語学習の支援について理解する。 ・就労者が受験する日本語能力を測る試験や技能を測る試験の概要、試験サンプルや学習リソースへのアクセス方法を理解した上で、日本語教師に何が期待されるか考える。
	外国人就労者に関わる制度	折茂 純哉 ACROSEED 行政書士 マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人就労者の制度の基礎知識(在留資格・条件、労働関連法など)を理解する。 ・外国人就労者受け入れ制度の課題、外国人就労者受け入れ企業で生じている問題(メンタルヘルス・海外との社会保障制度の違い等)について知る。
9/14(土) am9:00- pm12:30	生活・就労者の日本語教育 -地域日本語教室で学ぶ技能人材-	萬浪 絵理 千葉市国際交流協会委嘱 千葉市地域日本語教育推進事業 総括コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者の「生活者」としての側面に対して必要な日本語教育の理解を深める。 ・地域日本語教室の事例をもとに、地域日本語教育は技能人材をはじめとする就労者にとってどのような役割や意味があるのかを考える。
	生活・就労者の日本語教材 -『いろいろ 生活の日本語』を例に-	笠井 陽介 国際交流基金 関西国際センター 日本語教育専門員	<ul style="list-style-type: none"> ・在留資格「特定技能」等で来日する就労者が日本での生活場面で求められる基礎的な日本語コミュニケーション力を養成するための教材『いろいろ 生活の日本語』の構成や活用方法を理解する。
	就労者に対する日本語教育実践現場 -同研修プログラム修了者による発表-	同研修プログラム修了者	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者に対する日本語教育の実践現場での取り組みや工夫、課題や問題を知る。 ・修了者が本研修プログラムで学んだことをどのように活かしているかを知ることで、研修の活用方法をイメージする。
	意見交換交流会	受講者間	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループに分かれて修了者プレゼンの感想を伝え合うとともに、自身の日本語教育実践での取り組みや課題を紹介する。 ・研修プログラム途中における振り返りを受講者間で行う。

9/21(土) am9:00- pm11:35	就労現場における 異文化受容・異文化適応	近藤彩 昭和女子大学 教授 同大学 日本語教育センター長 同大学院 文学研究科 研究科長	・異文化接触における個人及び集団への影響や異文化受容態度について理解する。 ・就労外国人の職場で生じるトラブルの具体例を知り、支援の方向性について考える。
	職種別の日本語の指導法 ーウェブ教材/アプリ「げんばのにほんご」 (外国人技能実習機構)を例にー	飯塚知子 AOTS 日本語教育センター	・ウェブ/アプリ教材「げんばのにほんご」(外国人技能実習機構)に実際にアクセスし、同教材の構成や特徴について理解する。 ・講義やグループディスカッションを通して同教材の具体的かつ効果的な指導法について考えを深める。
	技能人材と語彙学習 ーどんな言葉の学習が必要か考えるー	飯塚知子 AOTS 日本語教育センター	・技能人材が就労するうえで必要となる言葉の特徴、既存の語彙教材を知る。 ・既存の語彙教材を用いた指導方法・学習方法を知り、自身の活動や自律学習支援に役立てられるようにする。
	現場の企業担当者・外国人就労者の声を聞く①・②	①ミドリ久慈衣料株式会社 ②五島工業株式会社	・外国人就労者の受入企業の日本人担当者の語りを聞き、外国人材の受入れに至った経緯や目的、日本語の必要性やそのレベル、外国人受入れにかかる取り組みや問題について知り、日本語教師としてできることを考える。 ・企業にて就労する技能実習生を事例として、来日経緯や目的、就労現場での業務内容や問題、必要となる日本語や日本人とのコミュニケーションで気を付けていることや生じたトラブルを知り、就労者に対して必要な日本語教育の内容や接し方を考える。
9/28(土) am9:00- pm12:30	【事例研究】外国人介護人材の就労と日本語教育	白井孝子 東京福祉専門学校 副学校長	・外国人介護人材の受入れに関する社会背景や制度、介護福祉士の資格や在留資格、業務内容について理解する。 ・介護施設の利用者やそこでの一日の生活、介護知識・技術について知り、日本人職員とのコミュニケーション場面において求められる日本語能力について理解した上で、介護職種を事例に職種別日本語教育をどのように実践するか考える。
	【事例研究】介護人材向けの専門日本語教育 ー介護の就労者向けウェブ教材「にほんごをまなぼう」を例にー	小林亨 日本介護福祉士会 国際介護人材支援 主査	・ウェブサイト「にほんごをまなぼう」に実際にアクセスし、同教材の対象者、構成、内容、種別(外国人向け学習コンテンツ・日本人向け手引き)を理解する。 ・外国人介護人材向けのカリキュラムやコースデザインを作成する際に、同ウェブサイトを教材リソースとして効果的に活用する方法を考える。
	就労者に対する日本語教育実践現場 ー同研修プログラム修了者による発表ー	同研修プログラム修了者	・就労者に対する日本語教育の実践現場での取り組みや工夫、課題や問題を知る。 ・修了者が本研修プログラムで学んだことをどのように活かしているかを知ること、研修の活用方法をイメージする。
	意見交換交流会	受講者間	・少人数グループに分かれて修了者プレゼンの感想を伝え合うとともに、自身の日本語教育実践での取り組みや課題を紹介する。 ・研修プログラム途中における振り返りを受講者間で行う。

	現場の介護施設担当者・外国人介護人材の声を聞く①・②	①社会福祉法人 旭福社会 特別養護老人ホームやすらぎ園 ②健祥会グループ	・外国人介護人材の受入施設の日本人担当者の語りを聞き、外国人材の受入れに至った経緯や目的、日本語の必要性やそのレベル、外国人受入れにかかる取り組みや問題について知り、日本語教師としてできることを考える。 ・介護施設にて就労する外国人介護人材を事例として、来日経緯や目的、就労現場での業務内容や問題、必要となる日本語や日本人とのコミュニケーションで気を付けていることや生じたトラブルを知り、就労者に対して必要な日本語教育の内容や接し方を考える。
10/5(土) am9:00- pm12:30	技能実習・特定技能のための仕事・生活の日本語教育 -教材『あたらしいじっせんにほんご』を例に-	新野佳子 国際日本語普及協会(AJALT)	・教材『あたらしいじっせんにほんご』を実際に手に取り、同教材の構成や特徴、教え方について理解し、就労者に対する指導法の一つとして同教材の活用方法を理解する。 ・グループディスカッションを通して就労者に対する日本語教授法について考えを深める。
	就労現場でのコミュニケーション能力を高めるための指導法 -教材『ゲンバの日本語』を例に-	内海陽子 AOTS 日本語教育センター 主任	・教材『ゲンバの日本語』を実際に手に取り、同教材の対象者と教材の概要と特長、構成について理解する。 ・AOTS の技術研修生向けの日本語教育を例として、コミュニケーション能力を高める指導方法、教材活用を理解する。 ・教材理念に基づく対学習者・教師間の対応について考えを深める。 ・実際に指導する際の留意点について考え、同教材の効果的な指導法の理解を深める。
	技能人材と会話学習 -コミュニケーションストラテジーが学べる会話を考える-	飯塚知子 AOTS 日本語教育センター	・技能人材が就労現場で必要とされる日本語や日本人社員とのコミュニケーションの特徴を理解した上で、どんなコミュニケーションストラテジーが必要かを考える。 ・就労現場で必要なコミュニケーションストラテジーを探すことができ、会話を教える際に取り入れることができるようになる。 ・コミュニケーションストラテジーを意識した会話学習のための学習活動デザインの考えを深める。
	コミュニケーション能力を養成する短期速習の教授法 -AOTS での技術研修生向け日本語研修をモデルにして-	矢島康江 AOTS 東京研修センター 日本語コーディネーター	・就労現場で求められるコミュニケーション能力とは何かを知り、その能力を短期間で養成するための指導のポイントを AOTS の実践例を通して学ぶ。 ・本科目で学んだ「話す力・聞く力を短期間で伸ばす指導法」を受講者各自の教育現場でどのように応用し実践できるかを考える。
10/19 (土) am9:00- pm12:30	就労者に対する自律学習支援とスローラーナーへの対応 -AOTS での技術研修生や EPA 候補者への実践を事例にして-	常次亨介 AOTS 日本語教育センター センター長補佐	・就労者向け日本語教育における自律学習支援の必要性を理解し、AOTS の事例をもとに自身の教育実践でどのような支援ができるかを考える。 ・AOTS の日本語研修を事例に、日本語学習に困難を抱える就労者の状況を理解し、スローラーナーへの対応や支援を考える。
	就労者の日本語学習に対する評価 -行動能力目標とパフォーマンス評価-	内海陽子 AOTS 日本語教育センター 主任	・「日本語教育の参照枠」及び「就労 Cando」について理解を深めた上で、それを就労者に対する日本語教育に応用する方法について AOTS の事例を通して理解する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・就労現場で必要な行動能力目標とそれに対応するパフォーマンス試験を行うにあたり、それぞれの就労現場に即した試験の実施に関する検討・計画についての考えを深める。
	企業に伝わる報告書作成	矢島康江 AOTS 東京研修センター 日本語コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育を専門としない企業や職場関係者に、就労者の日本語学習状況や学習の成果、継続学習のアドバイスとして何を伝えるか、どうすれば伝わるかを理解する。 ・クライアントが理解できる報告ができるようになるため、報告書サンプルをもとに日本語教育の専門用語を非専門家にも理解できる言い換え・書き換えの修正練習に取り組む。
10/26(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習 (導入)	澤田幸子 合同会社おおぞら日本語サポート 副代表	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の演習で就労者に対する日本語教育コースデザインを作成するために必要なニーズ及びレディネスの分析・検討、目標設定などの基礎知識や重点課題、注意点を理解する。 ・本研修の各科目で学んだ知識及び技能をコースデザインに応用する意識を高める。
	技能人材向けのコースデザイン 演習	澤田幸子 合同会社おおぞら日本語サポート 副代表	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の各科目で得られた基礎知識や指導法、教材リソース等の内容を応用し、ある就労者を想定したコースデザイン作成の活動を通して、実際に技能人材への日本語教育内容や評価・フィードバック方法、シラバス・カリキュラムデザインを検討する。
11/9(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習	小谷昌彦 合同会社おおぞら日本語サポート 代表社員	
11/23(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習	澤田竜人 ECC 国際外語専門学校 留学生事業部	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表 ・他の受講者との協働を通して多様な日本語教育観に触れ、自身の日本語教育観や教育実践を内省し発展させる。
11/30(土) am9:00- pm12:30	技能人材向けのコースデザイン 演習 (発表)	副学科長兼教務課・進路課責任者 高馬絢子 ISI ランゲージスクール京都校	
12/7(土) am9:00- pm10:40	研修の振り返り、ネットワークづくり	杉山充 AOTS 日本語教育センター センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講を通して得られた自身の学びを振り返り、それを受講者間で共有することで学びを再構成する。 ・今後、就労者に対する日本語教育に携わる上で、どのような学びが必要かを考える。 ・研修受講後における就労者に対する日本語教師に求められる資質・能力について自己評価を行う。 ・研修終了後も受講者間のネットワークを維持し、講師間のつながりの中で学び続けることの重要性を理解する。

*本研修プログラムでは、技能実習、特定技能、特定活動(EPA 候補者等)、技術研修生などの外国人就労者を「技能人材」と呼びます。